

令和 6 年度高知県文化芸術振興ビジョン評価委員会（第 2 回）議事概要

1. 日時 令和 7 年 2 月 6 日（木）13：30～15：30
2. 場所 高知県立高知城歴史博物館 1 階ホール
3. 参加委員 中平委員長、川鍋委員、小林委員、谷委員、都築委員、西田委員、松本委員
吉澤委員
4. 議題 （1）高知県文化芸術振興ビジョン行動計画及び令和 6 年度の進捗状況について
（2）令和 7 年度当初予算について

〔意見交換〕

（1）について

委員	県立文化施設について、集客力の高い企画展をしたいことは理解できるし、歴史系の企画展はタイトルからとても興味深いものだと感じるが、インバウンドを意識した取組は実施しているのか。国も文化観光推進法を作り、インバウンド対策の後押しをしている。企画展以外の部分を工夫することによって、新たな顧客の獲得につなげる視点を今後持っても良いのではないかな。もしくは今持っているのか。 美術館のホール事業はとても先進的である。どれだけの集客力があるのか気になる。 まんがもとても力を入れて展開されており、連続テレビ小説もあり、国内の関心も高まると思う。海外でもまんがは関心が高く、レベルが高い人が多いが、海外の人向けの取組をしているのか。
事務局	インバウンドについては、これまで周知が十分ではなく、反省すべき点もある。高知は航空便の定期便はないが、外国客船が年間 50～60 寄港しており、多いときは一度に数千人が来高する。高知城の近くにあるまんが BASE に海外の方を取り込むことができているかと言われると十分ではない。今後、外国客船で来てくださる方々に事前の周知や当日の呼び込みを強化していく。 県立文化施設に関しても、周知に関しては十分だったとは言えず、今後強化していきたい。
委員	外国人向けの多言語化がなされていないという理由で来ないということもある。そういった工夫をすると、レベルの高い人達が来るという視点を持った方が良い。高知城歴史博物館は場所も良いことから、高知県を知ってもらおうきっかけにもなる。良い取組をしているので、もったいないという印象を受けた。

オブザーバー	美術館館長からは、ホール事業に関しては、今年の事業はほぼ満席と聞いている。館長は、全国の美術館の協議会でも要職に就いており、東京の原美術館の副館長に就任していた経験があるが、当県のように美術館にホールを併設しているところは全国的にも珍しいと聞いている。ホール事業については、文化庁の助成金を獲得しているものの、400 席に対して海外の演者の方を何日間もお呼びするのは難しいのが現状。ただ、十分に集客はできていると考えている。
委員	前衛的で、東京で見られないものも実施しているので、美術館の企画展にも良い影響があればいつも思っている。応援している。
委員	ホール事業に関しては、度々見に行くが、盛況である。内容も突出したものが多いが、お客さんがきちんと入っており、海外の方もたくさんいらっしゃることから、コアなファンがいると感じている。 海外の方は、観光体験型が主流になってきている。高知城歴史博物館で着付け等のイベントをし、お城を背景に写真を撮影するなど、こういった内容が喜んでもらえて次の集客に繋がると思う。高知にしかない宴会のお座敷遊びがあるが、これを体験できる形にすると海外の方にも喜んでもらえると思う。海外の方に、遊びの内容についてガイドができる方の育成も同時に取り組む必要があると思う。
事務局	国際観光課の方では、地域通訳案内士の育成に取り組んでいる。外国客船の来高時などには、高知 SGG 善意通訳クラブというボランティアの方々にも中国語、韓国語、英語で各観光地で案内、紹介をしていただいている。いかに魅力的な取組を紹介できるか、観光と連携していく。
委員	収蔵庫問題について、あり方検討会の進捗状況を教えてほしい。 また、自然史博物館の必要性から、自然史博物館の検討と収蔵庫について他の県立文化施設と複合的に考える必要性を感じている。総合的に県で考えていく必要があると考えるが、意見を聞きたい。 3 館が連携したムー展の展開は、とても良かったのもっと広げてほしい。埋蔵文化財センターや市町村の文化施設との連携も面白いと思うので、実施してほしい。埋蔵文化財センターは県立文化施設の中での立ち位置が分からないので、説明してほしい。 まんが BASE の場所が非常にわかりにくく、認知されていないと感じる。もっと周知が必要。

事務局	歴史民俗資料館については、昨年度より資料収集方針・収蔵のあり方検討会を開催し、県内外の専門家の方に協議し、3月に報告書が提出される予定。資料収集のルール仕組み作りを中心にご意見をいただく。 埋蔵文化財センターは2つの主な業務があり、1つ目は資料の紹介、もう一つは県内での公共事業に伴う発掘事業を行っている。また、調査研究機関といった役割がある一方でその調査の成果を普及していくという博物館の役割も担っている。考古の分野も手がけていることから、歴史民俗資料館とは資料のやりとり等もしている。現在、画期的だと注目されている土器のことについても、今後、研究していきたい。 自然史博物館については、自然共生課で、関係団体と連携しながら収集の方法について協議を進めていると聞いている。収蔵庫については、歴史民俗資料館を中心に検討を進めている。
事務局	まんがBASEについては、お城の下で立地条件はいいものの、追手門の方から入るとわかりにくい一面もある。まんが甲子園の発信や、作画体験等の人材育成の側面もあり、右肩上がりで見込める入館者数は増えている。ただ、周知が十分ではないことから、今後情報発信を強化していく。また、海外の方に来ていただくという視点が十分に足りていなかったため、事前に情報発信や施設の魅力を上げる等、取り組んでいく。
委員	横倉山自然の森博物館や歴史民俗資料館の収蔵も大変だということであれば、トータル的に考えなければいけない。
委員	この進捗管理シートの中で、B評価がほとんどであり、C評価が少ししかない。3ページの文化施設にC評価がつけられているが、評価の際に入館者数が一番課題視され、中身はあまり問われていないのでは。県立美術館については、昨年度ジブリ展の効果で入場者数が多く、他の企画展で入館者が少なくても中身は問われず、全体では非常に増えているという評価になる。牧野植物園も「らんまん」効果で入館者数が倍以上になっている。 こういった文化施設は「誰に向けて文化発信をしているのか」という問題がある。観光客の方、海外の方にも見ていただきたいし、発信していく必要は当然あるものの、数字に反映されない高知県民の満足度をどのようにみていけば良いのかという疑問がある。香美市立美術館も15年かけて収蔵庫問題を解決した。何より、職員の熱意と非常に強い意志で仕事に取り組んだ結果、無理だと思っていた目標の達成に結びついた。 美術館同士での連携ではなく、文学館と一緒に連携する取組があり、これは文学館より提案があって実現した経緯がある。県立施設同士ではなく、市町村の施設との連携を広げて面白い試みを増やしていくと、県民により深く理解してもらえると思う。

委員	文化芸術を通じた県民の心の豊かさの向上ということであれば、県民文化ホールの事業で、知的発達障害児者の方とその保護者の方のためだけの映画上映会を実施しており、イオンモールの映画館に足を運べない方達が来館している。美術館も子ども達に向けて色を学ぶ企画展等を毎年しており、このような数値で表れないところを定性的にしていくようにすれば、評価が繋がっていくと思う。各文化施設の職員の方々はすごく熱心に取り組まれている方が多い。 市町村との連携は広がっていくと面白いと思う。29 ページの教育普及事業について、中山間地域に住んでいる方達は、市内に集まっている県立文化施設に行くことが難しいと思うので、文化施設や学芸員同士の連携により行きやすい地域で作品に触れる形があれば良いと思う。
事務局	昨年より、A～D 評価方法を取るようになり、目標値に対しての達成率での評価を出す形になっている。しかし、そこからでは計れないものもあり、広い視点で内容を十分に説明できるようにしていく。
委員	美術館については、集客力が高くなくても意義がある企画展はあると思う。そこをどうやって色々な人に伝えるのかを考えることが必要。現在、県立美術館の学芸員の提案で、企画展で取り上げている作家の作品を須崎でも展示している。香美市立美術館、中土佐町立美術館とも連携したりしているので、県内の文化施設がより協力していくことが面白い取組に繋がると思う。 美術館では、ベビーシッター付きの企画もあり、今まで来られなかった客層へのアプローチや、来館できる工夫が実施できていると思う。 国民文化祭について、普段、県内で文化活動をしている方々は、国民文化祭でどういった関わりができるのか知りたい。
事務局	県の主催事業とは別に、市町村で様々な取組もしてもらおうと考えている。文化団体とコラボする、市町村の方に協力していただいて何か文化的事業を実施する等、現在オール高知で県民が参加できる機会を考えている。
委員	普段活動している方々から国民文化祭に対してアプローチできる方法があれば良いと思う。
事務局	現在、検討中ではあるものの、広報ボランティアという形で、SNS を利用した広報のお手伝いに参加していただくということを考えている。また、全ての市町村ではないが、市町村でも企画委員会のような機関を設けているので、意見をいただけたらと思う。
委員	河田小龍展で、3 館の学芸員トークがあったが、連携が取れており、各館の視点がとても良かった。県全体を巻き込んで連携していくことが文化振興になると思う。33 ページの文化施設や公民館等での講座の開催について、それぞれ

	評価が出ているが、課題を克服していきながら、より一層伸ばしてほしい。 げいぶんお届け隊の取組は、県の施設に限定するのではなく、県内全ての施設に対して派遣しており、それぞれの市町村の取組に県が補助していく取組が活性化し、大きくなっていくとすごく良いと思う。 土佐清水市の落語講演は学校を挙げての取組なのか、こども達が参加する背景があるのか教えてほしい。
事務局	げいぶんお届け隊は今年度始めた事業であり、周知が足りないという反省点がある。元々は、中山間地域で鑑賞の機会や習う機会が少ない方々へ、県内で活動しているアーティストが登録している「芸事図鑑」の登録アーティストを中心にマッチングして派遣するという事業。今年度はこれから実施する予定。この事業については来年度も実施していくため、周知にさらに注力し、今回の6件の効果検証も進めていく。
委員	推測ではあるが、落語協会の会長である柳家さん番師匠の熱心なファンが土佐清水におり、長年の付き合いがあるようで、それが下地にあったのではないかと思う。噺家の方は熱心なファンのためなら小規模の公演であっても足を運ぶ。
委員	昨日、土佐清水市の中央公民館に仕事で行っていたが、こども教室というプログラムがあり、年間120名程度の子ども達が登録している。遊び場になっているため、毎日通う子もいる。この落語についても、その子ども達に周知され、興味がある子は聞きに来ると思う。
	以上

(2) について

委員	先日、高知城の二の丸まで車椅子で登ったが、途中が砂利になっている箇所もあり、障害物競走のようであった。弓道場の方は舗装があるため、一番登りやすいと思うが、一般の方は追手門の方から入ることが多い。車椅子で登れるように舗装をお願いしたい。また、申請すれば二の丸まで来るまで行くことができるようにしていただきたい。 現在、石垣カルテの作成もしているようだが、石垣マニアの方がいらっしゃるので、観光ボランティアで石担当の方を用意してもらいたい。
委員	車両の申請が平日のみで土日は利用ができない形になっている。せめて、月に一回、難しければ半年に一回でも、土日利用の選択肢を作ってもらいたい。平日に障害のある方が一人で外出することは難しく、介護者の方がいらっしゃるとなおさら土日の選択肢があると良いと感じる。国民文化祭でお城を見に行きたいという方も増えると思うので、検討をお願いしたい。 芸術祭の開催で、申請書の書き方のスキルを育てていかなければいけないと説明

	があった。申請の前段階で、アートマネジメント講座の開催をしている思うが、受講して浮かんだアイデアを企画立案して申請まで持っていける伴走支援が一番必要。そういった人達が KAP を手がかりに、地域で企画実現でき、地域で人材が育っていく助成プログラムになっていけば良いと思う。
事務局	高知城の舗装が繋がっていないとの指摘については、今年度、本丸の南側の黒金門から鐘撞きまで車椅子で登れるように舗装した。安全面を含め、今後も検討していく。 車両の申請については、土日祝には入城者が多いことから、安全面を考慮して、車両申請が難しいという状態。受け入れ側の対応、体制の問題もあるものの、柔軟に対応できないか指定管理者とも相談し、検討する。
委員	安全面については理解できる。ニーズにおいて一般の障害のない方が圧倒的に数が多いということも分かるが、障害のある人が数が少ないからという理由で、選択肢として最初から入れないということにはならないのではないかと。この文化芸術振興ビジョンの対象が全ての県民という意味からいうと、排除している考え方になると思う。年に一回でも良いので、検討していただきたい。
委員	数年前に、城郭考古学者の千田嘉博氏が講演で来高された際、高知城は酷評であった。展示の仕方についてはかなり厳しいご意見をいただいております、今も大河ドラマの功名が辻のコーナーを設けていることや、建物で貴重な箇所が物置になっていたりしていると指摘があった。同じく、バリアフリーについても、ヨーロッパの城郭は景観を損なわずに誰でもアプローチできるような工夫を施しており、具体的な例を出して話をされていた。的確で良いご意見をいただける方だと思うので、ぜひ、ご意見を伺ってほしい。
事務局	千田先生のご指摘を受け、来年度、照明の見直しにも着手する予定。 石垣カルテについては、石垣を文化財として維持するためのカルテという視点にとどまらず、文化としての石垣、石を築く技術、高知城を知っていただくための切り口として、ボランティアの方々にも情報提供していく。
委員	自然史博物館について、県の担当の部署名、推進の体制、そしてこの文化振興ビジョンの位置付けはどうなっているのか。
事務局	自然史博物館については、牧野植物園の担当をしている自然共生課の担当であり、関係者等と協議をしていると聞いている。
事務局	現行の文化芸術振興ビジョンは令和 8 年度までの計画である。令和 5 年度に一度見直しを実施したが、位置付けについては、次期のタイミングだと思っている。行動計画については、担当部局と検討していく。
委員	アートマネジメント講座を受講した後の話があったが、今、高知のアーツカウンスルの役目はどうか。アーツカウンスルはまさに伴走支援をするための機能を持っており、ビジョンの中でも重要な役割を持っている設定だと思うが、現状はどうか。

事務局	アーツカウンシルは高知県文化財団に所属しており、その方を中心に本課も一緒にプランニングから支援、アイデア出し、意見交換を行っているところ。
委員	つまり、一人しかいないということか。人を増やすということは色々大変だと思うが、様々な取組を今後実施していこうとしている人達の育成を、後押しするような仕組みか事業があれば良いと思う。検討をお願いしたい。
委員	KAP の助成金は有り難いが、自走は実際問題難しい。KAP 助成金以外にも、他の助成金を探したり、申請したりしている状況。もう少し支援を踏み込み、助成金全般に対してのノウハウを与えてもらえると良い。 自身もアーティストとして活動しており、天神橋商店街でグループ展に参加した際、一人のアーティストがパフォーマンスとして”新聞のお葬式”というテーマで、市内の緑の地を辿って歩いた。 高知新聞社の前から五台山の麓まで歩いたが、改めて高知市内を、要所要所の史跡を巡りながら歩くことが新鮮で良かった。
委員	現役時代に社会の先生が、全国から教員が集まる会で、”新聞のお葬式”を教材として取り上げたことがあった。土佐の文化の1つだと思う。
委員	新聞のお葬式は、県史の中には入るのか。
事務局	近代資料編の中で、自由民権活動については非常に重要なテーマとして取り上げることになっており、その前の近世、近代を通じた維新の歴史と関連することとして先生方で取り組んでいただいている。
委員	自由民権記念館には、当時の葬列の模型を寄贈しているので、参考までに見ていただけたらと思う。
	以上